

嬉 望

第 7 号
平成26年9月30日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



フィールドワーク特集号

1年生にとって、この夏は充実した「学び」を求められる期間でした。

専門書を読むことによる学習に取り組んだり、各地の様々な研修や研究会へフィールドワークに出かけたりするなど、各自がこの貴重な期間を生かし、今しかできない「学び」を行いました。本号では院生が取り組んだフィールドワークの様子を報告します

お世話になった各教育委員会、学校関係者の皆様には、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。



静岡県メンター育成研修 7月17日(木)

1年生4人と2年生2人は、7月17日(木)、静岡県総合教育センターで、若手教員育成のための校内OJT促進研修に参加しました。午前中、昨年度導入した「メンター制度」の説明と、浅野教授の基調講演がありました。午後は、昨年度の実践報告とコーチングの講義・演習、そして各学校での実践計画立案演習でした。

受講者は、県内の小・中・高・特支18校の教員と管理職で、教員は、昨年度の10年研修了者です。静岡県では、指導者を10年研修了者とし、10年未満教員に対して、校内での人材育成を展開しています。



今後、若手教員が増加する学校において、大いにヒントになる内容でした。

徳島県 主幹教諭研修 7月25日(金)

7月25日(金)に、徳島県総合教育センターで行われた主幹教諭研修に、1年生5名が参加しました。

研修では「学校組織マネジメントの考え方と進め方」と題した浅野教授による講義・演習を通じて、学校がどのような流れで変化するかを知り、その過程において、主幹教諭がどのように動けば、学校の活性化につながるのかについて学びました。

学校組織において、主幹教諭をどう活かすのか、各研修を通して持ち帰る受講者の意欲を学校活性化にいかにつなげていくなど、学校経営コースで学ぶ者としての課題もいただきました。



徳島県立総合教育センター前にて前列右は、宮本美枝子主幹教諭(兵庫県立伊丹西高校)

埼玉県 学校評価研修 8月11日(月)

8月11日(月)、埼玉県立学校人事課主催の学校評価研修があり、1名の1年生が参加しました。

埼玉県では県立学校を3グループに分けて、3年サイクルで第三者評価を実施しており、今回は各学校の教頭に向けた研修会です。午前中、県教育委員会から、第三者評価の説明があり、その後浅野教授の講義と、午後は、各学校の戦略マップの作成でした。

また、評価委員である宇都宮大学の藤井佐知子教授も参加され、演習成果にコメントをされました。

学校戦略マップに関しては後期の授業で扱うそうです。今回の演習に参加し、学校戦略マップの手法と実際作られた成果物を見ることができたことは、大きな収穫でした。



学校戦略マップ作成の様子を参観する守山勝主幹教諭(兵庫県立香住高校)

静岡市 10年経験者研修 8月12日(火)

8月12日(火)、静岡市総合教育センターで10年経験者研修が

あり、浅野教授の「組織マネジメントミドルリーダー版」を1年生2人が受講しました。研修ではグループワークにも参加し、静岡の教育現場の様子も知ることができました。

静岡市の教職員の年齢構成は逆三角形で、10年経験者とは言い各県ではまだベテランの数が多いうです。また、昨年の学力テスト公表問題もありましたが、現場はそれほど動じず、地道に取組を重ているようでした。

研修内容は、ミドルが学校全体を視野に入れる必要性や若手の育成をすることなど、ミドルの期待をとなえさせる内容であり、自分自身が現任校に持ち帰って校内研修をする際の参考にできると感じました。



グループワークに参加する山下剛功教諭(静岡県浜松市立庄内中学校)写真右

神戸市 4年次教頭研修 8月18日(月)

8月18日(月)に、神戸市総合教育センターで、「4年次教頭研修(組織マネジメント)」があり、1年生5名が参加しました。内容は「組織マネジメントの考え方」、「組織マネジメントの進め方」、

そして、「学校活性化のステップ」であり、前期授業を凝縮した内容で良かった。そして、授業時には気づかなかつた点を多く発見できました。

特に、「ミッション」について改めて学び直しました。どうしても「子どもを育てる」ことに考えを集約してしまう傾向があり、「○○な子を育てることで、どのようにその子が活躍できるか」といったあたりまで大きく踏み込んでイメージを築いていかなければならないと感じました。



写真左より
菅生宏教諭（鳥取県立八頭高等学校）
山端真司教諭（神戸市立八多中学校）
白川正樹主幹教諭（兵庫県立有馬高校）

山口県周防大島町 授業づくり研修会

8月18日(月)

「周防大島の教育を考えようオンラインプロジェクト」の第2弾として、島内各小学校から多数の教職員が参加しての研修会に、2年生5名、1年生5名が同席し、一緒に学習しました。

午前の部は、日渡教授による講義でした。まず、成果を上げる学校は目標が具体的であること、次に、授業中、教師は「ことば」を用いて伝えているが、「ことば」は「音」であり、実は、受け取つ

た子どもによって個々にイメージが異なっていること、だからこそ、みんなが共通して使う「ことば」は概念を共有するために議論する必要がある、とのお話を聞きました。

「どんな子どもに育てたいか？」という具体的な目標を共有するために、まずイメージを共有していくことの必要性に気が付きました。

午後の部は、「習得」について考える演習でした。与えられた情報にそれぞれ差があるグループが出した結論を比較し、環境が学習結果に与える影響を検証しました。

それを受けて、高濱禎彦教諭による「雲はどうしてできるのか？」をテーマとした理科の模擬授業を、参加者全員が生徒として受けました。東京大学の大学発教育支援コンソーシアム推進機構が提唱している協調学習の一つである「ジグソー法」を用いて、習得・活用・探究の学習活動を行いました。

実際に、授業を受ける子どもたちの感覚を体感し、インプットする活動とアウトプットする活動を教師がつかないでやることで、子供たちの思考判断能力は向上するのだということを学びました。



模擬授業をする高濱禎彦教諭
(鳥取県境港市立第一中学校)

山口市 管理職研修

中堅教員研修

8月21日(木)・22日(金)

8月21日と22日、山口県から派遣されている2年生3人と1年生4人は、山口市教育委員会が主催する「管理職研修」と「中堅教員研修」に参加しました。

「管理職研修」の内容は、学校職場診断と課題づくりで、理論に基づいた診断は、学校マネジメントの目安として活用できると感じました。

「中堅教員研修」では、教職員評価が育成型であることを周知するために、このような形で理論的に押さえていく必要性があることも感じました。また、前期のよい復習ともなりました。

研修後、山口市の岩城教育長と教育委員会幹部を囲んで懇親会があり、山口市の学校教育について、様々なお話を伺えたのも大きな収穫です。



写真左より
原田隆史教諭（山口市立鴻南中学校）
四田ちさと教諭（山口県立徳山高校）
松岡千鶴教頭（山口県周南市立岐陽中学校）

和歌山県 管理職研修

8月25日(月)・26日(火)

8月下旬に、和歌山県教育センター1学びの丘で、校長(26日)・教頭(25日)向けの「学校におけるOJTの考え方と進め方」と題した研修があり、5名の1年生が参加しました。

両日とも、午前は校内育成(OJT)を含めた人材育成の考え方と進め方についての講義で、午後は、各校の人材育成方策シートとキャリア振り返りシートを作成し、グループによる意見交換等、演習を中心とした展開でした。

参加した1年生は、前期科目「教職員の職能開発」の学び直しに加えて、今まで傍聴したことのない校長や教頭研修に参加し、参加者の受講姿勢等からも様々な刺激を受けました。



写真左より
佐藤秀樹教諭（鳥取県八頭郡智頭町立智頭小学校）
宮本美枝子主幹教諭（兵庫県立伊丹西高校）
小川晶弘教諭（兵庫県三田市立高平小学校）



鳥根県 グループリーダー研修

9月1日(月)・2日(火)

1年生6名が参加しました。2日間の研修で、行政における業務マネジメント、職場マネジメント、人のマネジメントについて学びました。

企業・行政共に組織のフラット化が進められる中でどのようなマネジメント手法がとられているのかを学校組織と比較しながらとらえ、学校現場におけるマネジメントを改めて見つめることができました。

また、リーダーの役割として、目標管理による機能的な側面と職場を活性化させる共同体的な側面があることなど、基本的なことは同じであることが分かりました。

学校現場と異なり、行政における個人目標は、「目標が数年後のもので、それを1年ごとに区切って今年の目標を立てるものがある。」「数値目標がはっきりしているものが多い。」「業務自体が目標となつているケースがある。」といった特徴が見られました。



参加大学院生を代表して挨拶をする本間厚子教諭（鳥取県倉吉市立社小学校）

京都市ミドルリーダー研修
9月5日(金)

9月5日(金)の18時から、京都駅前キャンパスプラザで、京都市総合教育センター・京都教育大学の連携講座「ミドルリーダー組織マネジメント研修」に、1年生3人が参加しました。浅野教授は、様々な理論や事例をあげながら、学校組織や教職員集団の特徴をわかりやすく解説されました。その上で、各現場を改善するためにミドルリーダーとしてどのような視点を持つべきなのかを提案されました。

受講者は、市内小中学校6、14年目教員で、自ら応募し、校長推薦があつた教員約100名です。平日の勤務後の時間帯にもかかわらず、受講者の真剣な取組姿勢が印象的でした。

講義後、京都教育大学の笠沙知章教授からも、勉強になるお話を聞かせていただきました。



写真左より
菅生教諭、辻真吾主幹教諭(兵庫県立西脇北高校)、白川主幹教諭

京都府教職員評価研修
9月8日(月)

9月8日(月)に「教職員評価制度評価者研修」として、「教職員評価制度による人材育成」と「教師力向上に向けた校内での実践」をテーマに行われた京都府の新任校長研修に1年生9名、2年生1名が参加しました。

人材育成の方法や機会はいろいろあるが、教職員評価の活用だけが、管理職がすべての教職員に直接かわる方法であるという言葉が印象的でした。

参加者からは評価の有効な活用の必要性和ともに、管理者としての評価能力向上の必要性について、改めて実感したという感想が聞かれました。



研修終了後、振り返りを行う参加者。

広島市2年次教頭研修
9月11日(木)

広島市教育センターにおいて「校内の人材育成における教頭の役割」というテーマで研修を受

講しました。今回の研修は、時間をかけて人材育成の基本事項を学びました。

また、OJTなど実践的な手法を学んだ後で、演習を行い、「人材育成方策」を検討しました。グループでの意見交換では、これまでに例のない画期的なアイデアも出てきて、話し合いも盛り上がりました。



現任教との違いについて、質問に答える小西裕之教諭(秋田県美郷町立六郷小学校)

大阪市2年次校長研修
9月12日(金)

「学校活性化に向けた校園長の役割」をテーマに、大阪市教育センターにて、浅野教授が講師を務められた研修に2年生1名、1年生10名が参加しました。

約70名の大阪市の2年次校園長の先生方が、真剣な姿勢で講義を聞き、意欲的に演習に参加し、活発に意見を交換されている姿は、学級経営コースの院生として良い刺激を頂けたと感じました。

三時間の講義の中で、組織マネジメントの視点から、ビジョンや組織の構造、運営についてのお話があり、具体的に、自校のビジョ

ンをつくるために、「ミッション探索」と「SWOT分析」の2つの演習を行いました。

これらは、前期の講義で学んだ内容をコンパクトにまとめたものであり、1年生にとっては、良い学び直しの機会となりました。参加院生の一人は、「FWに参

加するたびに学校経営に対する知見が深まり、自分の身体に染み込んでいくのを感じる。同時にテキストを繰り返し読むことの重要性を痛感している。」と話していました。



研修後、振り返りを行う。写真右から
古寺弘憲教諭(姫路市立朝日中学校)
横田威開教諭(鳥取県米子市立福米西小学校)
黒澤寛己教諭(京都市立塔南高等学校)

教育長セミナー(東北ブロック)
9月14日(日)・15日(月)

兵庫教育大学主催の東北ブロック教育長セミナーが宮城県仙台市にて開かれ、東北地方五つの県から教育長が集まりました。院生は1年生4名が参加しました。講義では、越直美(こし なおみ)大津市長が、大津市の事例を踏まえて、教育委員会制度の改正を求めた経緯と、新教育長に期待

することについて話されました。このセミナーのテーマは、「リーダーのための課題解決スキル」で、その中でも今回は問題分析を中心に研究しました。

目前の課題にとらわれて、対処的な解決を取りがちで、結果的に問題が解決しないことがあります。そのような状況に対応する、全体を俯瞰する力を養うのが、今回のセミナーでした。

参加した教育長は、テキストの事例をもとに問題を引き起こしている事実や状況をつかみとり、様々な視点からの意見が飛び交っていました。



教育長を前に、「教育長に期待すること」を講義される越直美大津市長

秋田県 学校・教育委員会視察
9月17日(水)・18日(木)

全国学力テストで毎年好結果を出している秋田県の現状を学ぶため、浅野教授と1年6名、2年1名が秋田県教育センター、大館市教育委員会、美郷町教育委員会、大館市立西館小学校、美郷町立六郷小学校、千畑小学校、美郷中学校を訪問しました。



右から、佐藤教諭
三井清教頭（山口市立大殿小学校）
柏崎勇人教頭（秋田県大館市立西館小学校）

に確実に浸透していて、どの学校でも同じ方向性で教育活動が行われていることです。

また、秋田の将来を担う子供たちを育成するためキャリア教育の視点を重視したふるさと教育が各学校で実践されており、地域教材や他教科との関連が効果的に盛り込まれた学習が展開されていました。

そして、小学校、中学校いずれにおいても板書に「めあて」や「課題」などの学習過程が示され、子供たちは学習のゴールを意識して活動していました。さらに、随所に話し合いやホワイトボードを活用した学び合いの活動があり、子供たちが真剣に、しかも楽しく学習している姿が印象的でした。

秋田県の先生方はチームで仕事をすることで成果を出しており、教育センターや教育委員会も全面的に現場を支援する体制が整えられ、「チーム秋田」として学力を高めていることを実感しました。

特別なことはしていないが、やるべきことをチーム秋田で着実に実践する、これができるのが秋田県の強みではないかと思いました。



参観後、秋田の学力について意見交流する
右から佐藤校長、柏崎教頭、美作健悟教頭（山口市立白石中学校）、柳井崇史教頭（下関市立日新中学校）、小西教諭

福井県 第三者評価実習

9月24日(水)・25日(木)

9月24日(水)・25日(木)に、福井県教育委員会からの依頼を受け、福井県の県立敦賀高等学校と足羽高等学校の第三者評価に1年生16名と2年生1名が参加しました。教員は、浅野教授と大野准教授が同行しました。

両校はともに授業力向上を重点として、学校の活性化を図っています。最初に、校長先生から学校経営に対する考え方を聞き取る時間がありました。

敦賀高校では学校改善に向けて「他がやっていないことをする」という言葉が、足羽高等学校では「自信を付けさせたい」と話されていたことが印象的でした。

学校改善への意欲とともに、その根底にある生徒への愛情や教職員全員で挑戦することを楽しもうとしている雰囲気伝わってきました。また、既成の事例にとらわれない管理職の柔軟な考え方や、それを実践していくための

の組織づくりの工夫も両校の共通点でした。

ほとんどの院生にとつて評価者としての学校訪問は初めてで、戸惑うことも多くありました。特に学校とともに改善のポイントを探るためのヒアリングやインタビューは難しく、今後の課題です。同時に、学校を知るためには、資料の調査に加えて、様々な人と直接、話をすることの重要性を実感する貴重な体験でもありました。

今後控えている先進校事例研究の実習等で活かすなど、体験を学びに繋ぐことが大切だと考えられています。



評価結果のすり合わせをする
左から吉岡美保教諭（京都府京丹后市立峰山小学校）、井上政行教諭（兵庫県立松陽高校）、白川主幹教諭



授業観察する左から伊藤純一教諭（北海道美瑛高校）、福井県福岡指導主事

大分県九重町 熟議

9月24日(水)

一年生5名が九重町教育委員会主催の熟議「九重町の子どものかをどのような子どもに育てるか」に参加しました。

九重町は、「このえ学園構想」を学校と地域が一体になって作っています。そのために、年間3回の熟議を計画しています。今回は今年1回目で、地域の代表とPTA、学校職員、そして、このえ学園推進委員合計42名が一同に集まりました。

まず、全体を対象に熟議の進め方やルールを説明した後、一年生が5つのグループにファシリテーターとして入り、熟議を進めました。様々な立場から育てたい子ども像が数多く出されました。次回は、それらを受けて、私たちに何ができるかを話し合います。



参加者全員に熟議の進め方やルールについて説明する横田威開教諭（鳥取県米子市立福米西小学校）

加西市 主幹教諭研修

9月30日(火)

9月30日(火)、兵庫県加西市教育センターで、主幹教諭向けの

研修会があり、5名の1年生が参加しました。

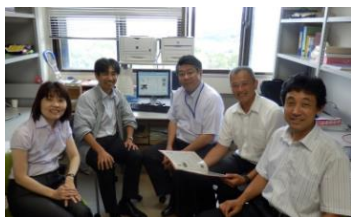
主幹教諭の位置づけと役割については、各県毎にばらばらでまだ定まっていない状況があるようですが、研修では兵庫県の制度を踏まえて、その位置づけ、役割、出番づくりの3つの視点から講義と演習をしました。

組織を変革する中で、トップがビジョンを打ち出し、組織が戦略的にゆさぶられる中で、主幹教諭がミドルとして突出し変化を促進する役割を持つという点が興味深く、私たち院生が関わってきた業務と重なるところもあり、現場に戻ったときに実践すべきと考えます。



左から岩瀬弘憲教諭（佐賀県立唐津東中学校）、辻主幹教諭、白川主幹教諭、本間教諭

9月より、「嬉望」編集委員が一年生に引き継がれました。よろしく願っています。



左から、吉岡美保教諭（京都府）、古寺弘憲教諭（兵庫県）、浅野良一教授、横田威開教諭（鳥取県）、小西裕之教諭（秋田県）